

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教育学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 実践的教育科目群の質を検証するために、教員相互の情報交換の場を設け、授業の質を確保する。	→ 「履修者数規模別の授業科目数」「少人数授業の授業形態の調査」「マルチメディア教室の稼働率」「演習・実習科目担当者会議における検討状況」	B	B	B		
2. 実習科目等における学生へのガイダンスおよび事前事後指導のありかたの検討と改善を図る。	→ 「実習委員会の検討状況」「実習生に対する外部評価内容」	B	B	B		
3. 教員・保育士養成課程の充実と改善のために、教員・保育士養成課程担当者を月1回開催する。	→ 「幼稚園教員・保育士養成課程担当者の検討状況」「小学校教員養成課程担当者の検討状況」	B	B	B		
4. 学生による授業評価を積極的かつ効果的に活用する。	→ 「学生による授業評価に基づいた授業改善の方策の作成と公表の実施率」	B	B	B		
5. 授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修会を年2回実施する。	→ 「FD委員会、研修会での検討状況」	B	B	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	実践的教育科目群については、学生の主体的参加を促し、授業の質を保障するため少人数制（1クラス50人以下）の授業を多く開講している（全体の85%以上）。また、授業運営に関する科目担当者会を月に1度のペースで開き、教員相互の情報交換を行っている。学部設置申請をしているため、教育課程の大幅な改編は完成年度（=2012年度）までできないので、年間の履修単位数の上限を50単位未満にすることは難しい。2013年度以降については、学部再編のための将来ビジョン委員会で検討している。
目標2	全科目について学部ホームページ上にシラバスを掲載し、学生が授業内容を確認できるようにしている。さらに、実習科目については、実習の目的等を記した教育学部独自の実習要項を作成し、学生に配布して丁寧なガイダンスを行っている。また、物理的理由により時間割に組み込むことのできない実習の事前・事後指導については、土曜日、放課後等に組み込み、各実習指導で内容的に重なっている部分を整理している。そのために、担当者会および、実習委員会を月に1度開催してシラバスの内容と齟齬がないよう指導内容に関する情報交換を行い、授業の質を向上させる工夫をしている。
★ 目標3	授業内容および方法の改善を図るため、幼稚園教員・保育士養成課程と小学校教員養成課程の科目担当者会を設け、各々1～2カ月に1度開催して情報交換や課題の検討・整理を行い、教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけるようにしている。幼稚園教育・保育士養成課程担当者会では、教育・保育現場に送り出したい学生像について整理し、養成課程に携わる教員が共通理解をもって指導にあたることができるよう検討を進めている。また、小学校教員養成課程担当者会では、教材の充実を図るための検討を行い、利用しやすい教材室の設置を提案し、実現した。
目標4	学部全体で行う授業評価のみでなく、実習関連科目については、受講者を対象としたアンケート調査を行い担当者会でその結果を検討して授業改善に活かすようにしている。
目標5	各学期の終わりに（年2回）、学部教員全員を対象とする教員相互の情報交換と研修の場を設け、これをFDの一環として位置づけ、授業内容や方法の改善を図るようにしている。各回のテーマは以下の通りである。2009年度春学期 1)基礎演習の運営について、2)これからのFD活動のあり方について、秋学期 1)臨床教育学の学び、2)臨床教育学と生徒指導・教育相談、2010年度春学期 聖和キャンパスの施設・設備、秋学期 大学における研究と授業、2011年度春学期 教育学部における教養教育のあり方、秋学期 教職実践演習の進め方。
備考	